

人に優しい店と街を



熊谷 マップも作成中

熊谷市のNPO法人I.K.る、熊谷で生まれた資格。

Gコミュニティ(飯島賢二代表理事)は、「第8回接客士認定講習会」を同市石原の市立勤労会館で開いた。障害がある人や高齢者、扱い方すら分からないのがすべての人への心ある接客技術を学ぶ講座。接客士の育成を通じて、人に優しいまちづくりを目指している。

「接客士」はI.K.Gコミュニティのやさしいお店プロジェクトが独自に認定す

角材で作った段差を乗り越えて乗り越える実技講習会を受ける参加者たち。熊谷市の市立勤労会館。

熊谷で生まれた資格。商業施設のパリアフリー化は進んでいるものの、マンパワリーの育成は遅れており、店員の多くは車いすの扱い方すら分からないのが現状。高齢者や障害者も安心して買い物ができるよう、介助や救命救急の基礎知識をもった接客士を育てるのが目的だ。

障害や認知症の基礎知識の学習、食事介助、AED(自動体外式除細動器)を使った応急手当の実技講習など全4回の講習を受講すると、接客士の資格が受けられる。これまで熊谷市と高崎市で認定講習会を開

き、約400人を接客士に認定している。県の地域元気アップ協働事業の補助を受け、接客士がいる店のマップも作成中だ。

車いす介助など学ぶ

今回の講習会は美容院やホテル、飲食店、洋品店などから28人が受講。初日は、車いすの基本的な扱い方を実技指導。熊谷商工会議所の木島一也会頭も受講生の中に加わり、段差や斜面での車いすの動かし方を学んだ。

プロジェクトの代表の細田光男さんは「障害がある人が服を買に行っても、試着をさせてもらえない。店員に障害への知識がないために、門前払いされるのが現状」という。木島会頭も「接客士がいる店が増えれば、熊谷が日本一安心して買える街になる。接客士でまちおこしができるのでは」と関心を示していた。(米山士郎)